

科目コード	E3114	科目名	児童ソーシャルワーク				
履修区分	選択	開講期	3年前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	福岡 律子						
授業の概要	ソーシャルワークは、クライアントが訴える問題の解決を支援するために、クライアントの生活世界において問題を維持させるように機能している相互作用を見立て、悪循環となっているパターンを変容させることで、解決を試みる理論と技法の体系である。本授業では、子どもとその家族の問題解決の支援に有用な対人支援の基礎理論と技法を学ぶ。さらに、個別の援助実践事例を用いた演習を通して、支援の実際についてイメージを持ちながら、対人支援専門職として必要な視点や姿勢、援助的なコミュニケーション技法を身につけることを目的とする。						
DPとの関連	平和を希求し、その教育に努め、幸せな人生を創造しようとする力を身につける						
	人間愛のもと、ケアすることの意義を教育・保育の専門性において学び、専門的な知識・技術との統合を図る力を身につける						
	修得した専門的な知識・技術を活用し、教育者・保育者として実践する力を身につける						
	教育・保育者として、子どもの育ちや学びに関わる問題について時代の変化を見通して研究し、新たな価値の創造を図る力を身につける						
	社会との連携を図り、人々の教育的・保育的ニーズや社会的ニーズに応えることができる力						
DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）＝卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人支援の基礎理論を理解することで、理論的枠組に基づいて事例を検討できるようになる。</li> <li>2. 援助に役立つコミュニケーションの技法、特に質問技法を知り、意識して使うことができるようになる。</li> <li>3. 人を支援する専門職として自覚を持ち、支援者としての考え方や姿勢を身につけることができるようになる。</li> </ol>						
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書は使用せず、毎回の授業テーマに関する資料を配布します。各自でファイリングをお願いします。</li> <li>2. 毎回の授業終了時に振り返りレポートを書いて提出もらいます。</li> <li>3. 課題の提出は期限厳守とします。</li> <li>4. 授業中の私語、携帯電話の使用は控えてください。</li> </ol>						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】			事前・事後学修		
	1	オリエンテーション：授業概要の説明、対人支援の基礎理論の理解（1）家族システム論			事前学習：家族システム論について書籍やインターネット等で基本的な考え方やキーワードを調べる（2時間）。事後学習：授業内容の振り返り、家族システム論の考え方・もの見方についてノートにまとめる（2時間）。		
	2	演習：事例分析（ファミリーアセスメント）			事前学習：家族システム論についての復習（1時間）。事後学習：授業内容の振り返り、家族をアセスメントする手法についてノートにまとめる（2時間）。		
	3	対人支援の基礎理論の理解（2）コミュニケーション（人間の相互作用）論			事前学習：人間コミュニケーションの語用論について書籍やインターネット等で調べる（2時間）。事後学習：コミュニケーションの5つの公理について自分なりの具体例を挙げながらノートにまとめる（2時間）。		
	4	演習：事例分析（逐語の相互作用パターンの分析）			事前学習：コミュニケーションの語用論、5つの公理の復習（2時間）。事後学習：相互作用の視点からの事例分析の手法についてノートにまとめる（2時間）。		
	5	ソーシャルワークにおける相談支援の進め方：解決に向けた面接相談の手順			事前学習：配布資料を読み、疑問点を整理する（2時間）。事後学習：授業内容を振り返り、相談支援の各段階におけるコミュニケーションのポイントをノートにまとめる（2時間）。		
	6	演習：相談支援事例の考察			事前学習：相談支援の手順、ポイントの復習（1時間）。事後学習：事例を再度読み直し、考察のポイントを振り返る（2時間）。		
	7	援助技法：相談支援に役立つコミュニケーション技法の紹介			事前学習：解決志向アプローチで用いられる質問技法について調べまとめる（2時間）。事後学習：学んだ技法を振り返り、質問技法を用いたセリフや使用の際の留意点等についてノートに整理する（2時間）。		
	8	演習：援助技法の実践練習（シナリオづくり、ロールプレイ）			事前学習：前回学んだ質問技法の復習（1時間）。事後学習：授業で作成したシナリオをより良くするために再検討し、自分なりに修正する（2時間）。		
成績評価方法	期末レポート課題：50%、授業内のレポート・ワークシート30%、グループワークへの取り組み20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	プリントを配布						
参考書	人間コミュニケーションの語用論 相互作用パターン、病理とパラドックスの研究					4-931199-52-6	
	ファミリー・ソーシャルワークの理論と技法 大下由美・小川全夫・加茂陽編（九州学出版会）					978-4-7985-0143-7	
	はじめの家族療法 浅井伸彦編著、松本健輔著、坂本真佐哉監修（北大路書房）					978-4-7628-3165-2	
教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや家族支援の事例を元に、事例の見立てや分析、それに基づいた支援場面でのやりとりのシナリオづくりなど、グループでの演習を多く取り入れたいと考えています。子どもや家族の問題解決に役立つ知識や技法を身につけるためと思って、周りの人と協力する力を発揮しながら、積極的に取り組んでもらえたらと思います。</li> <li>・疑問に感じたことやよく分からないことがあれば、そのままにせず、質問してください。</li> </ul>						
教員との連絡方法	オリエンテーションの際にお知らせします。						
実務経験のある教員	相談支援機関や学校教育現場で、ソーシャルワーカーとして解決志向の面接相談を実践しており、その経験を活かして、演習を中心とした実践的な内容の授業を行う。						